



## 児童生徒の発達を支える生徒指導を目指して! ～生徒指導提要改訂から2年経過しました～

13年ぶりに大幅な見直しがされた生徒指導提要の改訂から、2年が経過しました。改訂された生徒指導提要において、生徒指導の目的は、次のように記載されています。

### 生徒指導の目的

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

生徒指導の目的はここにも記載があるとおり、何かの生徒指導上の課題に対処したり、問題行動を未然に防止したりすることに限らず、児童生徒の個性の発見とよさや可能性の伸長、社会的資質能力の発達を支え、幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることと明記されています。またそのためには、児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることが重要であることも示されています。自己指導能力とは、児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力のことです。

つまり、生徒指導提要には、自己指導能力の獲得を支える生徒指導が求められているのです。そのうえで、重要な4点が示されています。

#### 自己存在感の感受

学校生活のあらゆる場面で、「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感することが大切です。また、ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感や、他者のために役立った、認められたという自己有用感を育むことも極めて重要です。

#### 共感的な人間関係の育成

自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係をいかに早期に創りあげるかが重要となります。

#### 自己決定の場の提供

児童生徒が自己指導能力を獲得するには、授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験が何より重要です。

#### 安全・安心な風土の醸成

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、教職員の支援の下で、児童生徒自らがつくり上げるようにすることが大切です。そのためには、教職員による児童生徒への配慮に欠けた言動、暴言や体罰等が許されないことは言うまでもありません。

日々の授業、学級活動、行事等様々な教育活動で、この4点の視点を意識して取り入れていくことが、児童生徒の自己指導能力の獲得を支えることとなり、生徒指導の目的の達成につながります。

スーパーバイザーからの一言アドバイス 児童生徒が安全・安心を感じる相談の受け方

南房総教育事務所スクールカウンセラースーパーバイザー 京谷 幸一

「目は口ほどに…」とは言いますが、カウンセリングでも「Verbal よりもVokal」という言葉がありまして、コミュニケーションでは言葉の内容よりも言い方や声の調子のほうが大切です。話をする際に肩の力を抜いて、お腹に肺があるイメージで深い呼吸をこころがけてみてください。他にも話すスピード、声のトーン、視線の使い方、相槌をとるタイミング等を工夫して柔らかい雰囲気を作り出してみましょ。何を話しても否定されずに聞いてもらえそうと思ってもらえます。自分のダメな部分も気兼ねなく話せるようになって初めて、子どもたちは自分を振り返ることができるようになります。これが心の教育の土台になっていくのです。

生徒指導提要には、これからの生徒指導の基本的方向性として以下の3点が示されているよ。

- (1) 特定の児童生徒に焦点化した「事後」指導・援助から、全校体制で取り組む全ての児童生徒の「成長・発達を支える生徒指導」⇒発達支持的生徒指導への転換が求められています。
- (2) 学習指導と生徒指導の一体化 教科の学びを社会で充実して生きることにつなげる
- (3) チーム学校による生徒指導体制の構築



発達支持的生徒指導が求められてるんだね。それって何だろう。

発達支持的生徒指導とは、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものだよ。

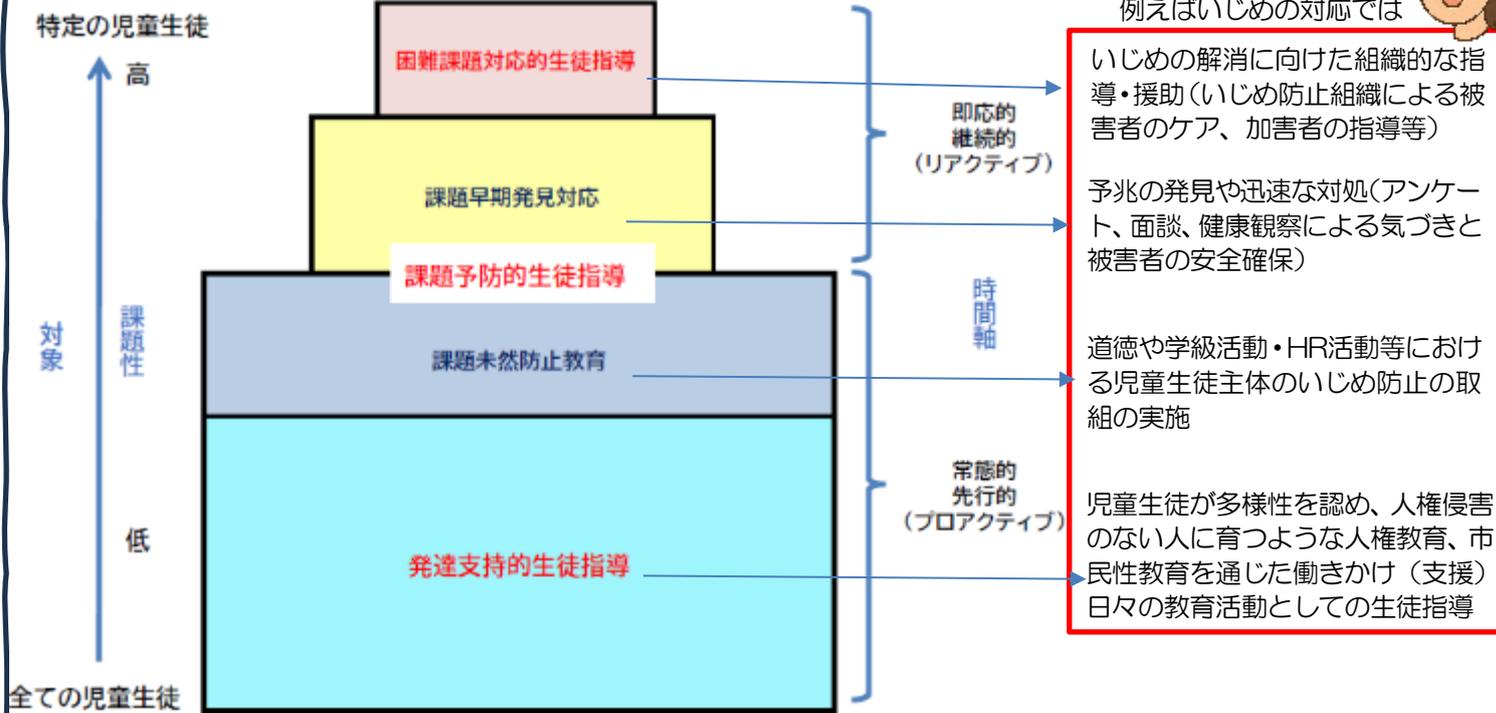


具体的にはどういうことなの？

児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、称賛、対話、及び授業や行事等を通じた個と集団への働きかけなど。発達支持的生徒指導は、積極的な先手型であり、常態的・先行的な全児童生徒を対象としたものです。以下の図と、いじめの対応についての例を参考してください。



生徒指導の2軸3類4層構造



特定の児童生徒を対象とした、特定の事案の指導だけでなく、全児童生徒を対象とした、常態的・先行的(プロアクティブ)な生徒指導の創意工夫が必要ということだね。積極的な声かけや励ましをすることも発達支持的生徒指導の一つになることがわかりました。積極的に声かけしようと思います。

スーパーバイザーからの一言アドバイス 児童生徒が何かうまくいかなかったときの声かけについて

南房総教育事務所 スクールカウンセラースーパーバイザー 宮崎 祐里

結果としてはうまくいかず、失敗してしまったことでも、本人としては「こうなったらいいな」という思いや気持ちが必ず背景にあったと思います。うまくいかなかった“結果”について、周囲はつい注目がちですが、その“背景”や行動するまでの“プロセス”について丁寧に聴いていくことが大切です。

「あなたとしては、そんなふうになるといいなと思って行動したんだね」と自分なりに考えての行動であったことを認め、「じゃあ、今回の経験を参考にして今度はどんなふうにやってみようか？」と、次回に向けての作戦と一緒に考えるのも良いと思います。その背景やプロセスを十分に認めてもらえると、失敗体験ではなく、頑張ってチャレンジした経験となり、次の機会に「またやってみようかな」という気持ちになるのではないのでしょうか。このように周囲の大人に気持ちをわかってもらえることが、次のチャンスに向けてのエネルギーとなっていくと思います。